

TOKYO GLOBAL GATEWAY事業
令和3年度における事業の検証結果について

令和4年11月

東京都教育庁指導部指導企画課

目次

第1	経緯	1
第2	調査について	3
第3	調査結果	5
第4	まとめ	29

第1 経緯

1 TOKYO GLOBAL GATEWAY について

TOKYO GLOBAL GATEWAY（以下「TGG」という。）は、平成30年9月に都教育委員会が民間事業者と共に開設した体験型英語学習施設であり、体験的で実践的な英語学習を通じ、児童生徒が英語を使用する楽しさや必要性を体感することにより、英語学習の意欲向上のきっかけとなることを目的としている。

当該施設は、開設後4年が経過し、約30万人の児童・生徒が利用している。令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、利用が大幅に落ち込んだ期間があったが、現在、予約・利用者数は回復傾向で推移している。

利用した学校現場からは好評を得ており、多摩地域にも同様の施設の整備を求める声が寄せられ、多摩地域における体験型英語学習施設を開設することとなった。現在、開設に向けて準備を進めており、TOKYO GLOBAL GATEWAY GREEN SPRINGSとして、令和5年1月に立川市に開設する予定である。

2 令和2年度のTOKYO GLOBAL GATEWAY 検証専門部会について

令和2年度に、多摩地域における体験型英語学習施設の整備を検討するに当たり、TOKYO GLOBAL GATEWAY 検証専門部会を設置し、TGGの整備内容が、本事業の整備目的の達成にどのように、どの程度寄与しているか検証を行い、TGGの更なる改善に役立てるとともに、多摩地域での整備内容の検討に反映させていくこととした。

しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、TGGの利用が抑制され、学校における教育活動も授業での話し合い活動の抑制などにより例年とは異なるなど、計画的かつ正確な調査を行うことが難しいことから、実施可能なものとして、TGGでの過去アンケートの集計・分析のみを実施することとした。

TOKYO GLOBAL GATEWAY 検証専門部会における検討内容（概要）

○ 検証目的

TGGの整備内容が、本事業の整備目的の達成にどのように、どの程度寄与しているのかについて検証を行う。検証結果については、TGGの更なる改善に役立てるとともに、多摩地域での整備内容の検討に反映させていく。

○ 事業効果の検証の観点

以下の3つの観点から整理と検証を行うこととした。

①TGGでの「体験」の特性

②学習・取組態度や意識を通した「意欲」の向上

③英語コミュニケーション能力の向上（本事業以外の教育活動等による影響があり中長期的な捕捉が必要であるため参考指標として活用）

○ 具体的な検証手法

整理した観点を検証するため、以下の調査及び分析を想定

- ・ TGG 利用者及び未利用者の比較（調査 A）
- ・ TGG 利用校における利用前後の変容等の分析（調査 B 及び調査 C）
- ・ TGG 利用中の児童・生徒の学習活動調査（調査 D）
- ・ TGG 利用に関する長期的な影響・効果の調査（調査 E）

○ 令和 2 年度における調査及び検証

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和 2 年度は実施可能なものとして、調査データが存在する TGG での過去実施アンケート（調査 B：平成 30 年度から令和元年度まで）の集計・分析を実施

○ 今後に向けての示唆

- ・ 過去のアンケート結果だけでは捕捉しきれない詳細な変容を調査分析し、事業改善に役立てていくことが望まれる。更に長期的な効果を検証していくことも有意義
- ・ 楽しみながら英語を体験している児童・生徒が多いこと、その後の変容が相当程度報告されていることは評価できる一方、楽しさの質については今後検証が必要
- ・ 多摩地域での整備に当たっては、青海 TGG の良さを生かしつつ、更に異なるプログラムが提供されることを期待

3 今回の効果検証について

令和 3 年度は、令和 2 年度の TOKYO GLOBAL GATEWAY 検証専門部会の経緯を踏まえ調査を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響が長期化し、引き続き、学校や TGG において感染防止対策が必要な状況が続いていた。そのため、今回も可能な範囲で調査を実施することとし、想定していた調査対象や内容を一部縮小し、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、学校や TGG の協力のもとアンケート調査を実施した。今回、令和 2 年度同様、限られた内容であるが、TOKYO GLOBAL GATEWAY 検証専門部会の検討内容を踏まえ、これらの調査結果を検証することとした。

第2 調査について

1 調査の概要

(1) 調査① TGG 利用校における利用前後の比較

ア 調査内容

TGG が普段利用前後に利用校に対して実施している利用者アンケートとあわせて、英語学習や英語に対する考えや TGG での英語学習等について調査

イ 調査対象

TGG を利用した小・中・高等学校の児童・生徒及び教員（抽出）

ウ 調査項目の例

【児童・生徒対象】英語学習や英語の授業、TGG での英語学習に関すること

【教員対象】英語の授業について、授業中の児童・生徒の様子

(2) 調査② TGG 利用に関する影響・効果についての調査

ア 調査内容

TGG 利用の有無による、英語学習や英語学習への取組姿勢や意識、意欲の向上、英語コミュニケーション能力等の違いの有無等を調査

イ 調査対象

都内公立中高一貫教育校の生徒及び教員（抽出）

ウ 調査項目の例

【生徒対象】英語学習に関する意識、TGG での体験が英語学習に役立っているか、TGG について印象に残っている点

【教員対象】TGG の教育上の効果とその内容や理由、授業中の生徒の様子

(3) 調査③ TGG において過去に実施したアンケート調査

ア 調査内容

TGG が利用者に対して過去に実施したアンケート結果（今回の対象は令和2年度の利用者）について、再集計し、分析

イ 調査対象

TGG を利用した小・中・高等学校の児童・生徒及び教員

ウ 調査項目の例

【児童・生徒対象】英語が好きか、TGG は楽しかったか、TGG での体験は今後の英語学習の刺激になったか

【教員対象】教員自身にとって得られるものがあったか、TGG 利用後に生徒に変容は見られたか

※調査概要は別添資料を参照

2 報告書の数値について

- (1) 回答者数：図表中の「n」は、各設問に該当する回答者の総数であり、設問によって件数は異なる。
- (2) 図表の単位：回答率(%)は小数点第2位を四捨五入して表示しているため、合計が100%にならない場合がある。
- (3) 複数回答：複数回答のグラフは、回答率(%)の合計は100%を超えている。
- (4) 分析軸に使用した属性項目は、無回答を除いてあるため、各属性の件数の合計が全体件数と一致しないことがある。また、設問間クロス集計についても、視点の明確化を図るため、必要選択肢にのみ絞って使用している場合があるため同様となっている。

3 留意点

- (1) 本調査は、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら可能な範囲で実施したため、対象や期間を幅広くとって実施することが困難であり、限られた期間において、実施可能な学校に依頼した。調査対象として一定のサンプル数はあるものの、対象となった学校は抽出されたものであることに留意が必要である。
- (2) 設問については、コロナ禍の影響を強く受けるものは含めないようにした。また、新型コロナウイルス感染拡大防止の対策が行われている状況であり、英語学習や、海外での学び、TGGの利用等に対して、回答が消極的となっているなどの可能性があることに留意が必要である。
- (3) TGG利用の効果や影響を見るため、別の種類の調査結果との比較を行っているが、調査項目により対象が異なるため、回答の割合や傾向に違いが見られる場合がある。同じ設問であっても調査対象や実施時期、TGG利用から経過した時間など条件が異なることに留意する必要がある。

第3 調査結果

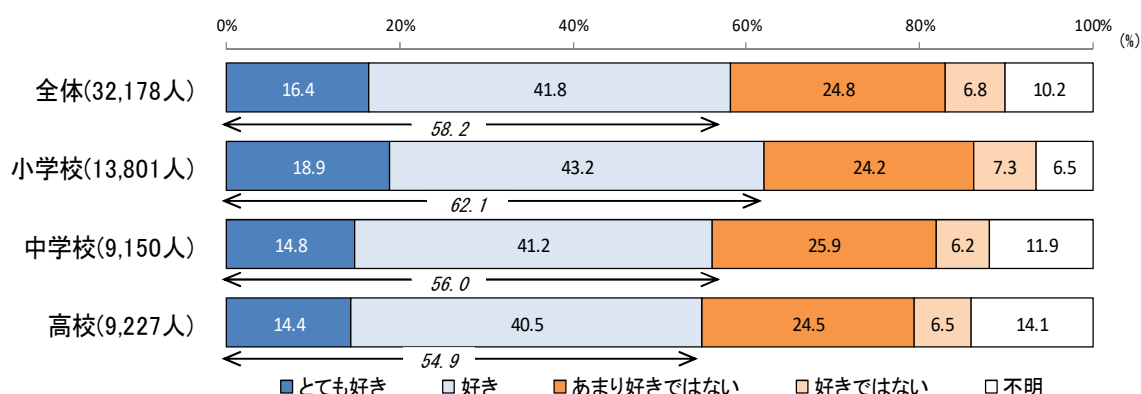
1 TGG 利用校における利用前後の比較（調査①及び調査③）

この章では、TGG 利用校における利用前後の変容等として、調査①及び調査③の結果により、前半では英語や英語学習に対する考え方について、後半では TGG を利用した効果や感想、利用前後の変容について見ていく。

（1）英語学習や英語の授業に関すること

ア 英語（英語学習）が好きか

図1 あなたは英語(英語学習)が好きですか。【調査③ (TGG 利用前)問1 児童・生徒】

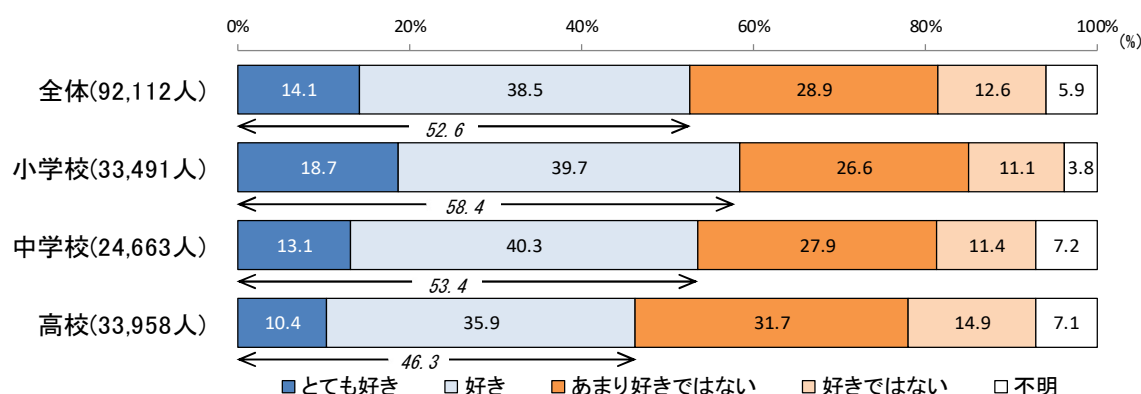


英語や英語学習について、「とても好き」と「好き」を合わせた<<好き>>は全体で 58.2%であり、校種別に見ると、小学校(62.1%)が、中学校(56.0%)、高校(54.9%)と比べて高い。

令和元年度までの調査結果（以下「過去調査結果」という。）と比較すると、全体的な割合の分布は同様の傾向であった。今回の令和2年度分の方が全ての校種で英語や英語学習を<<好き>>とした割合が高くなっているが、新型コロナウイルス感染症が影響を及ぼした可能性もあり、比較に当たっては留意が必要である。

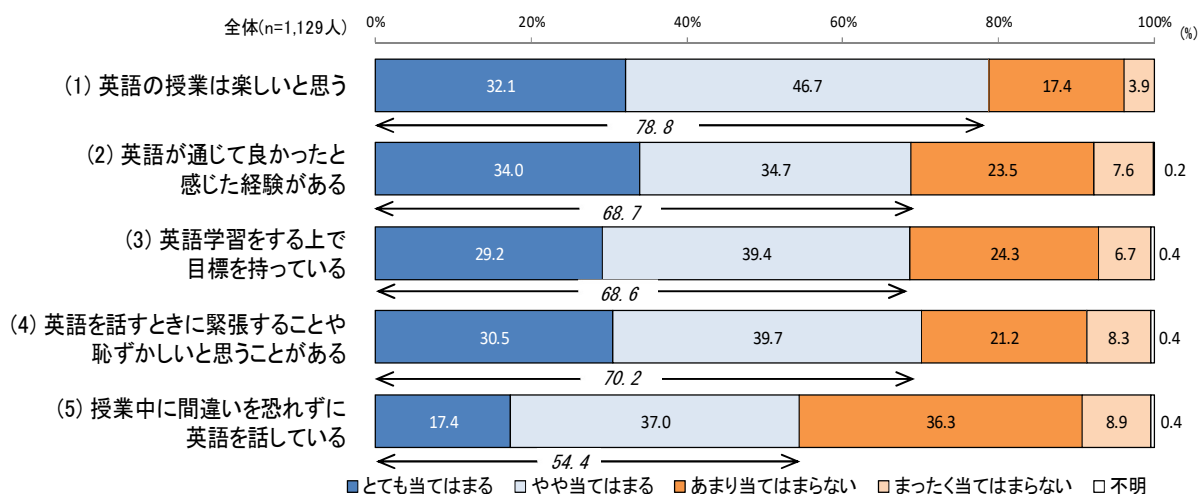
（参考）過去調査結果

図2 あなたは英語(英語学習)が好きですか。【過去調査結果 (TGG 利用前)問1 児童・生徒】



イ 英語学習や英語における経験や目標、姿勢等

図3 英語学習や英語の授業に関して、もっとも当てはまるものを1つ選んでください。
【調査①(TGG 利用前)問1 児童・生徒】

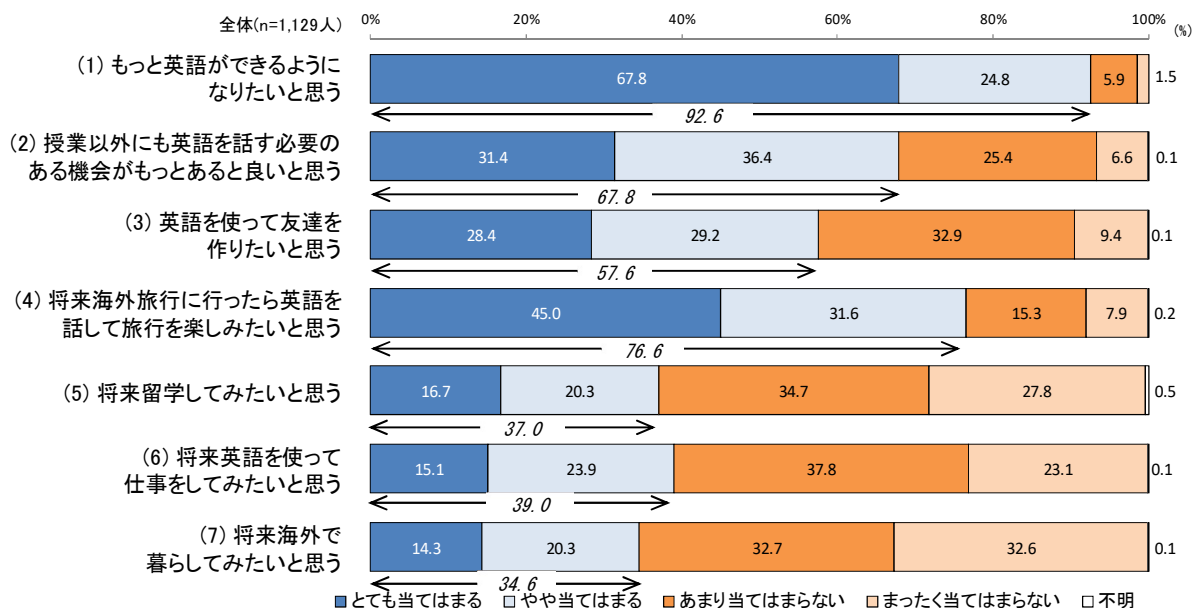


英語学習や英語の授業に関する経験、目標など、それぞれの項目について、「とても当てはまる」と「やや当てはまる」を合わせた<<当てはまる>>の割合は、「英語の授業は楽しいと思う」が78.8%、「英語学習をする上で目標を持っている」が68.7%となっており、英語学習に意欲的である児童・生徒が多くいることがうかがえる。

一方、「英語を話すときに緊張することや恥ずかしいと思うことがある」と回答した割合が70.2%に上るとともに、「授業中に間違いを恐れずに英語を話している」は54.4%にとどまっており、意欲的に学習に取り組む中でも、英語を話すことについての心理的抵抗感や苦手意識がある児童・生徒が一定数いることがうかがえる。

ウ 英語学習や英語を話すことなどへの考え（コミュニケーション意欲、英語の学習意欲等）(TGG 利用前)

図4 英語学習や英語を話すことなどへの考えに関して、もっとも当てはまるものを1つ選んでください。【調査①(TGG 利用前)問2 児童・生徒】



英語学習や英語を話すことなどへの考えについて、「とても当てはまる」と「やや当てはまる」を合わせた<<当てはまる>>の割合は、「もっと英語ができるようになりたいと思う」が 92.6%と、大部分の児童・生徒が英語学習に意欲的であったり、必要性を感じていたりすることがうかがえる。

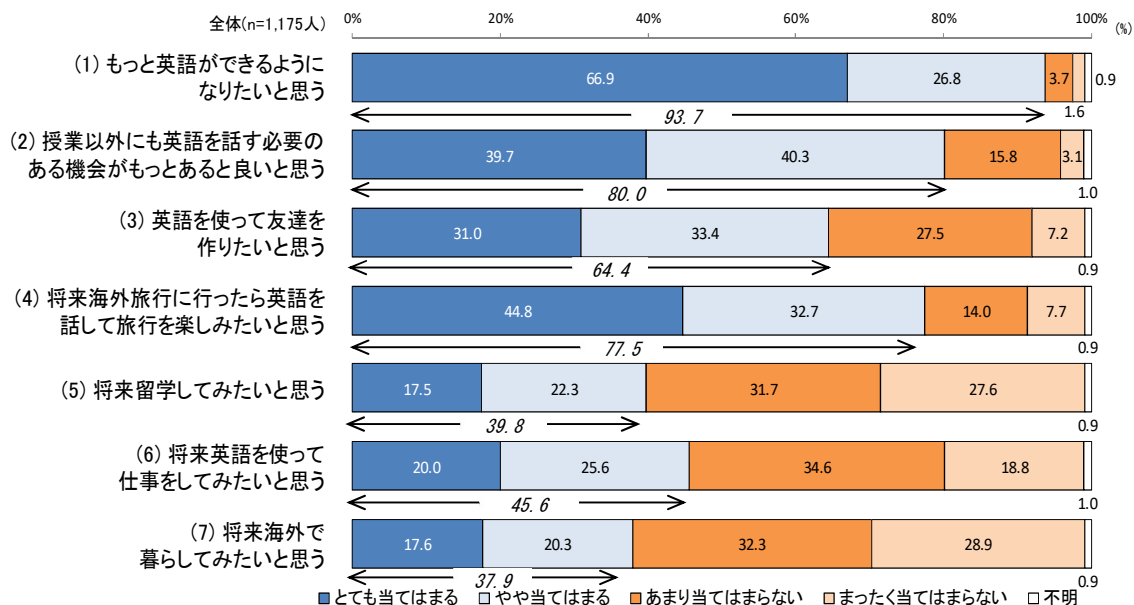
次いで、「将来海外旅行に行ったら英語を話して旅行を楽しみたいと思う」(76.6%)、「授業以外にも英語を話す必要のある機会がもっとあると良いと思う」(67.8%)、「英語を使って友達を作りたいと思う」(57.6%) となっており、身近な場面で英語を使ってみたいと考える児童・生徒も一定程度いることがうかがえる。

また、将来の留学や海外での生活、仕事など、一步進んだ内容に意欲や関心をもっている児童・生徒の割合はそれぞれ4割弱であった。

前問では、英語学習において、児童・生徒が喜びや目標をもちながらも英語を話す際に緊張感がある状況がうかがえる一方、本設問の結果から、様々な場面において、英語を使ってみたいという願望があることもうかがえる。

エ TGG 利用後における英語学習や英語を話すことなどへの考え（コミュニケーション意欲、英語の学習意欲等）

図5 英語学習や英語を話すことなどへの考えに関して、もっとも当てはまるものを1つ選んでください。【調査①（TGG 利用後）問2 児童・生徒】

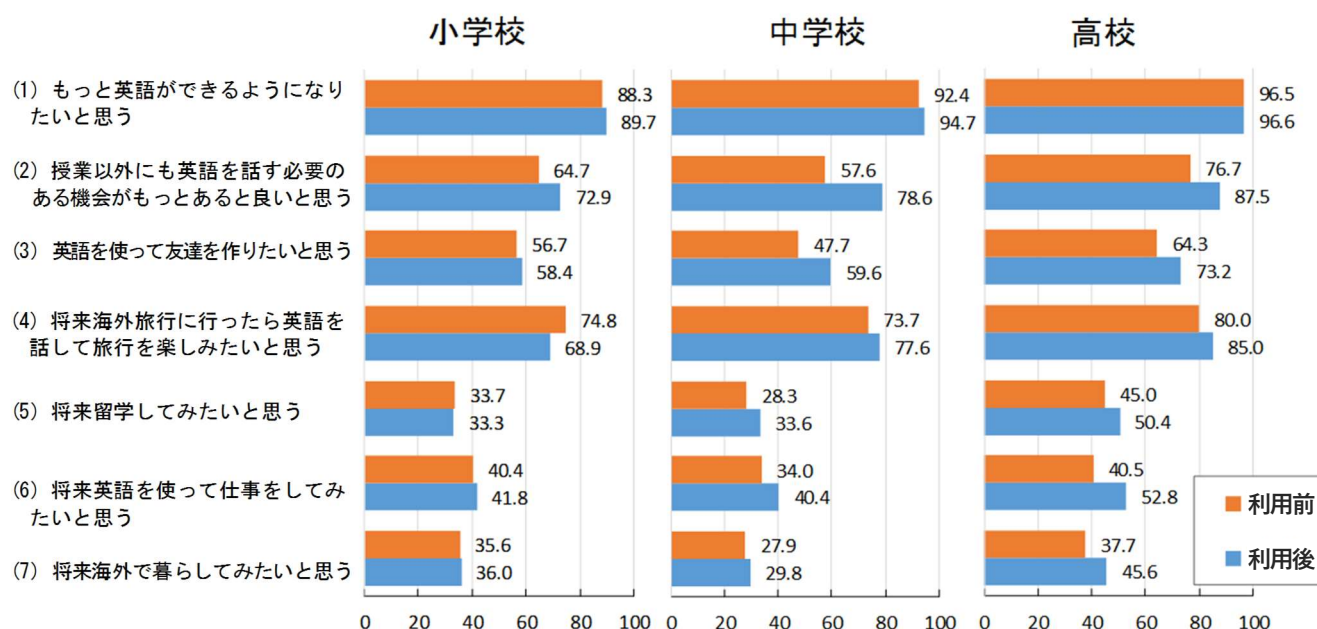


本設問は、TGG 体験前の同じ設問「ウ 英語学習や英語を話すことなどへの考え」（図4）と同じ設問を TGG 体験後に聞いたものであり、体験前の結果と比較

すると、全体的に割合の分布など傾向に大きな違いは見られないものの、体験後の結果の方が、全ての項目において意欲的な回答を示す割合が高くなっている。

TGG での一回数時間の体験が児童・生徒に大きな変容を及ぼすことはもとより期待できるものではないが、TGG での体験が児童・生徒に与えたインパクトはあったことがうかがえる。児童・生徒の英語学習に対する意欲や願望に対して、TGG での体験が応えられる可能性があり、TGG での体験を各学校に帰ってからの学習活動に有機的に結び付けることができれば、更なる意欲の向上につながることを期待できると考えられる。

図6 英語学習や英語を話すことなどへの考えに関して、もっとも当てはまるものを1つ選んでください。【調査①（TGG 利用後）問2 児童・生徒 校種別】



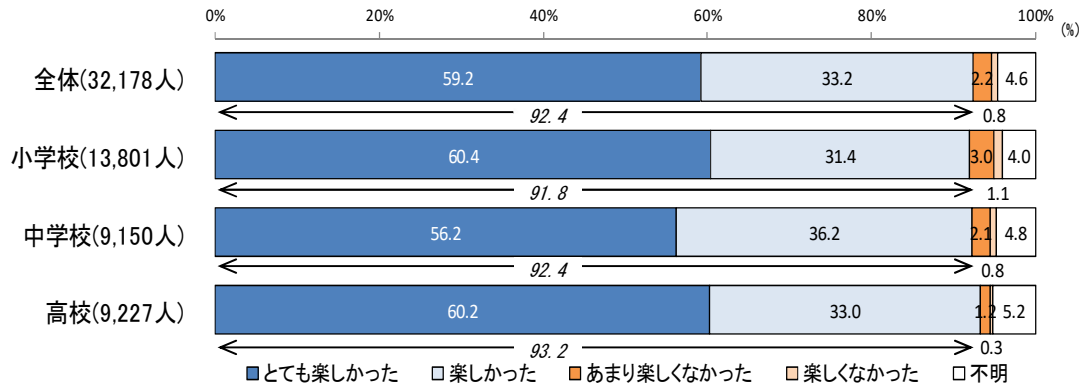
TGG の利用前・利用後の比較を校種別に見ると、割合や利用前後の差の傾向に違いが見られた。いずれの項目においても、「当てはまる」の割合は高校が最も高くなっており、高校においては大学受験を学習の目標の一つとする生徒も多いと思われるが、その中でも、様々な場面で英語を使えるようになりたいと望んでいる生徒が一定数いることを示していると考えられる。

高校の段階では、小学校、中学校と比較して、自分の将来をより現実的に捉えられるようになるとともに、これまでの様々な学習を通して、コミュニケーションを図る資質・能力が身に付いてきていることから、このような結果となったことがうかがえる。

(2) TGG での英語学習に関すること

ア TGG における英語学習体験の感想

図7 TGG は楽しかったですか。【調査③ (TGG 利用後)問1 児童・生徒】



TGG における日常とは異なった臨場感のある空間で英語を使う体験について、利用後に聞いたところ、「とても楽しかった」と「楽しかった」を合わせた<<楽しかった>>の割合は全体で 92.4%であり、どの校種でも 9 割を超えている。

過去調査結果と比較すると、今回の調査結果の方が、<<楽しかった>>の割合が若干高かったが、<<楽しかった>>の割合はどちらの結果でも全ての区分で 9 割以上であり、大きな傾向の違いは見られず、TGG での英語学習の体験を楽しめたことがうかがえる。

(参考) 過去調査結果

図8 TGG は楽しかったですか。【過去調査結果 (TGG 利用後)問1 児童・生徒】

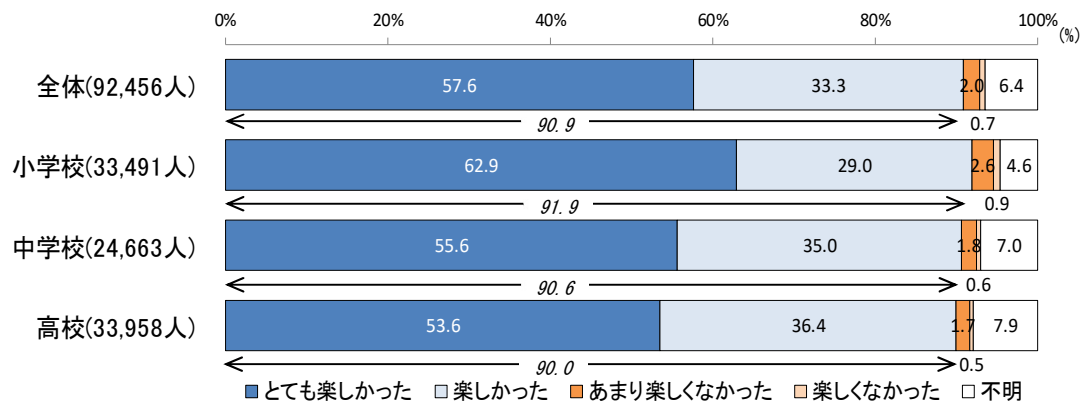
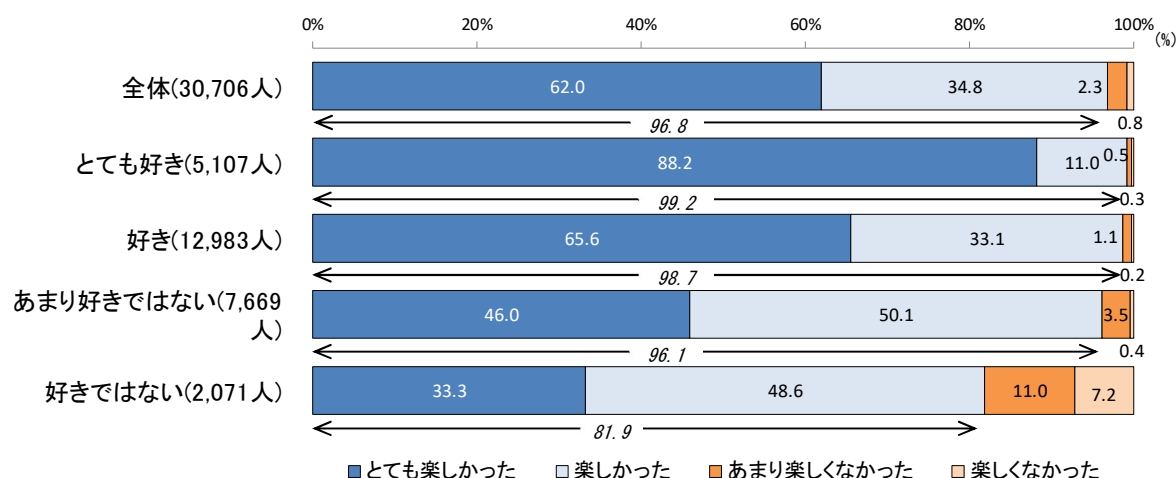


図9 「英語が好きですか」×「TGG は楽しかったですか」【調査③(TGG 利用前)問1×調査③(TGG 利用後)問1 児童・生徒】

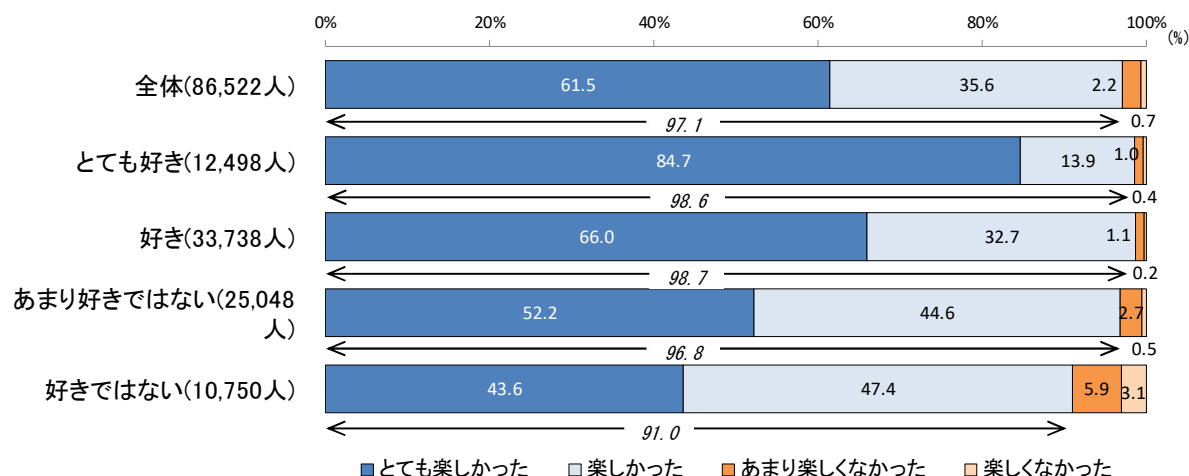


TGG の利用前のアンケートで、英語学習について、「あまり好きではない」と回答した児童・生徒の 96.1%、「好きではない」と回答した児童・生徒の 81.9%が TGG での体験を<<楽しかった>>と回答しており、英語に心理的抵抗感や苦手意識がある児童・生徒も、TGG での体験が楽しかったと感じていることが分かる。一旦学習内容に心理的抵抗感や苦手意識をもつと、授業の中で克服するのは容易ではないことを想定すると、これは、TGG の効果の一つとして特筆すべき点である。

過去調査結果と比較すると、過去調査結果においても全体的には同様の傾向が見られ、英語学習が好きではない生徒も 9 割以上が TGG での体験を楽しんでいることが分かる。過去調査の方が、「好きではない」児童・生徒の<<楽しかった>>の割合が 9.1 ポイント高いなど、一部で違いが見られた。

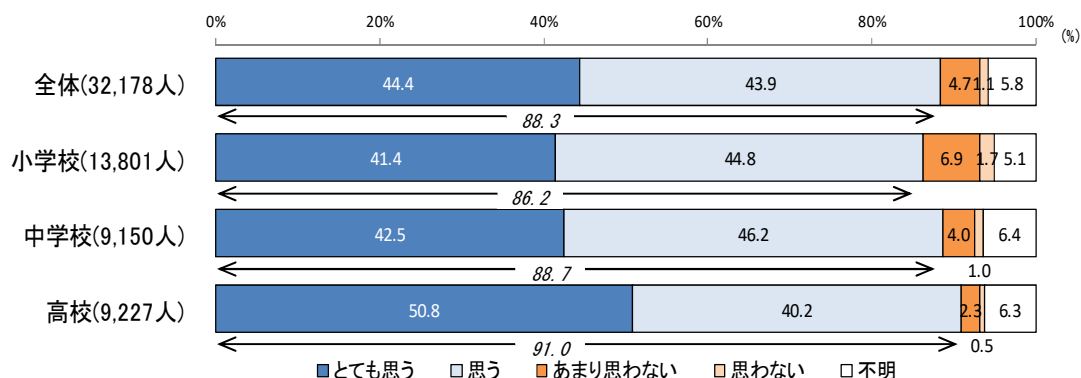
(参考) 過去調査結果

図 10 「英語が好きですか」×「TGG は楽しかったですか」【過去調査結果 (TGG 利用前)問1×過去調査結果(TGG 利用後)問1 児童・生徒】



イ TGG での体験による英語学習への刺激

図 11 TGG での体験は、今後の英語学習の刺激になりましたか。【調査③(TGG 利用後)問2 児童・生徒】



TGG での体験が、今後の英語学習の刺激になったかについて、「とても思う」と「思う」を合わせた<<思う>>の割合は 88.3%であり、どの校種も約 9 割であった。高校は「とても思う」が他の校種よりも高く 5 割を超えている。

過去調査結果と比較すると、過去調査結果においても<<思う>>の割合はどの校種も 8 割から 9 割程度であり、それほど傾向の違いは見られないが、高校における<<思う>>の割合は今回の方が高くなっており、他の校種との差が見られた。また、内訳における「とても思う」の割合は高校を除き今回の方が低かった。

(参考) 過去調査結果

図 12 TGG での体験は、今後の英語学習の刺激になりましたか。【過去調査結果 (TGG 利用後) 問2 児童・生徒】

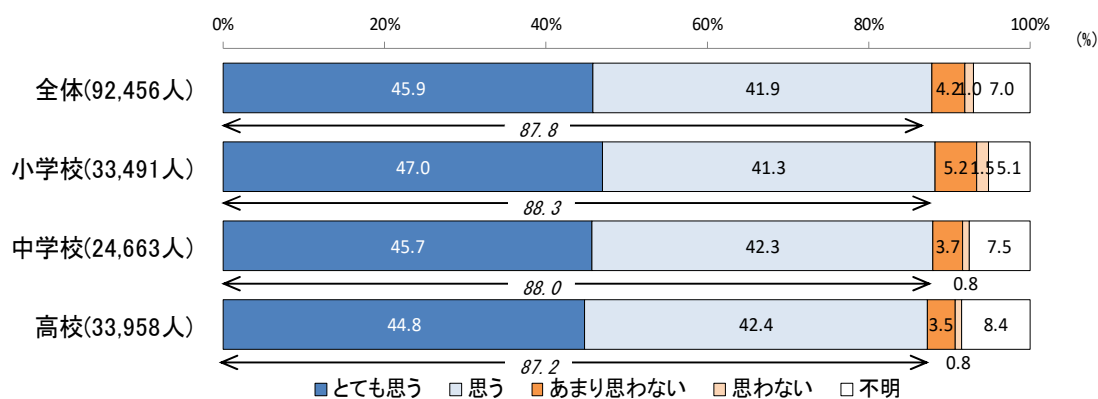
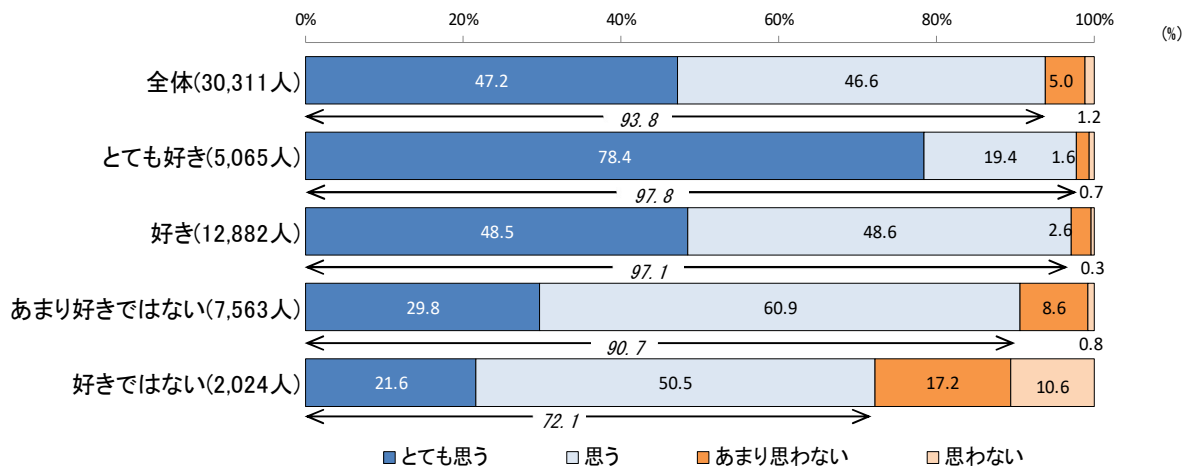


図 13 「英語が好きですか」×「TGG での体験は、今後の英語学習の刺激になりましたか」
【調査③（TGG 利用前）問 1 × 調査③（TGG 利用後）問 2 児童・生徒】

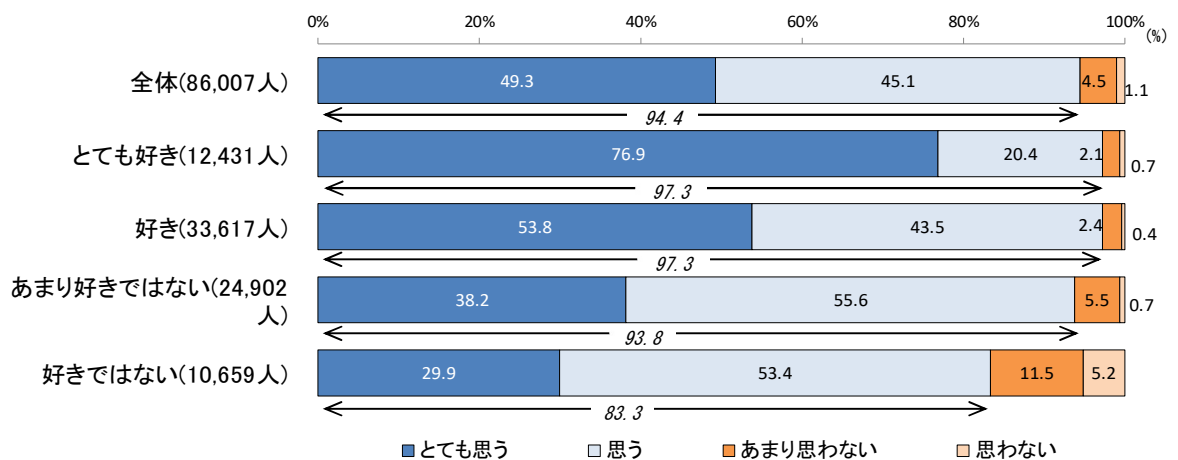


TGG の利用前のアンケートで、英語学習について、「あまり好きではない」と回答した児童・生徒の 90.7%、「好きではない」と回答した児童・生徒の 72.1%が TGG での体験が英語学習の刺激になったと回答しており、英語に心理的抵抗感や苦手意識がある児童・生徒にとっても、TGG での体験が意欲向上に寄与したことがうかがえ、TGG の効果として注目することができる。

過去調査結果と比較すると、<<思う>>の割合にそれほど違いは見られないが、内訳における「とても思う」の割合は「とても好き」の区分を除き今回の方が全体的に若干低くなっている。

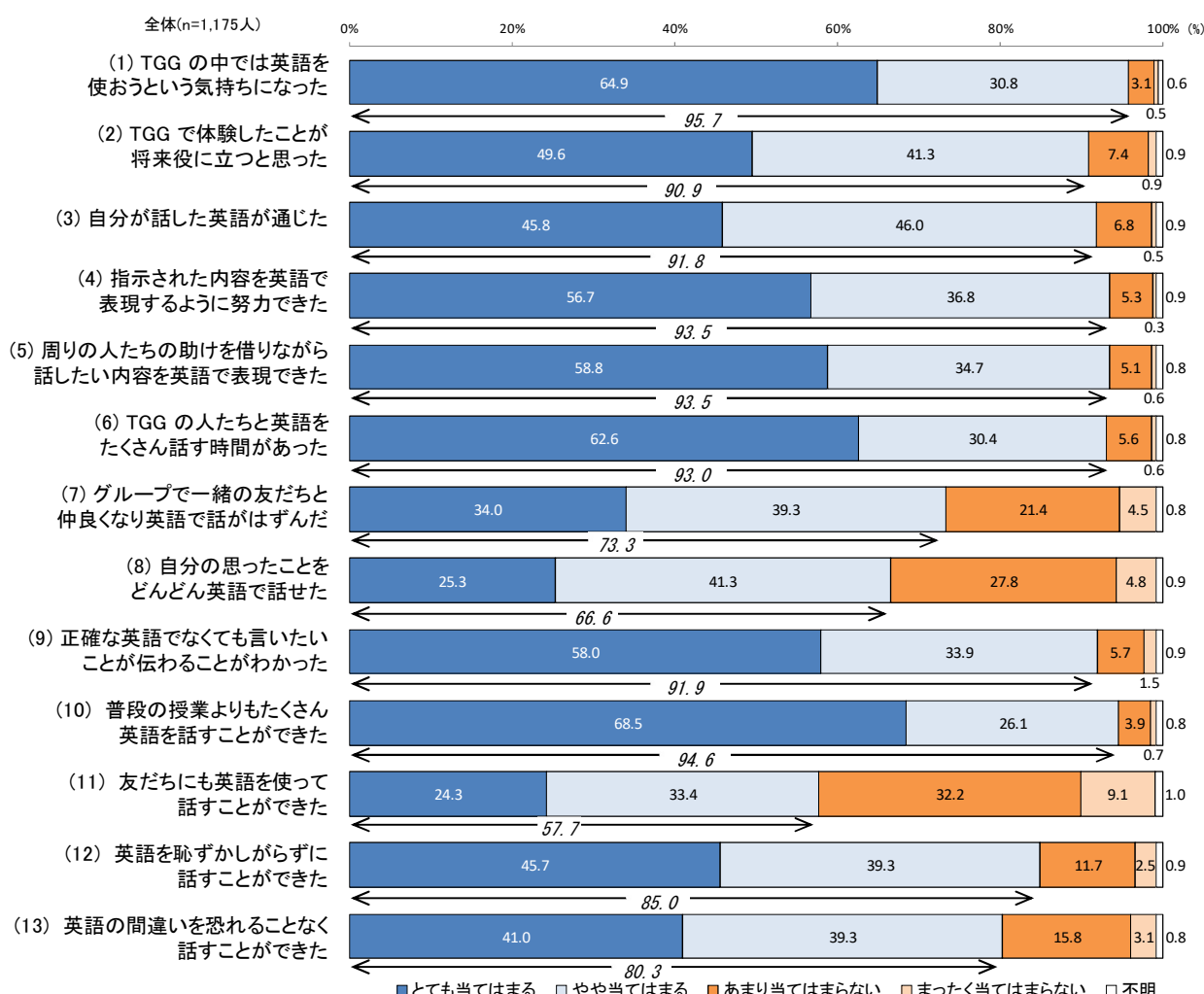
(参考) 過去調査結果

図 14 「英語が好きですか」×「TGG での体験は、今後の英語学習の刺激になりましたか」
【過去調査結果（TGG 利用前）問 1 × 過去調査結果（TGG 利用後）問 2 児童・生徒】



ウ TGG での体験の様子、発話状況、英語を使おうという気持ち等

図 15 TGG での英語学習に関して、もっとも当てはまるものを1つ選んでください。【調査① (TGG 利用後) 間1 児童・生徒】

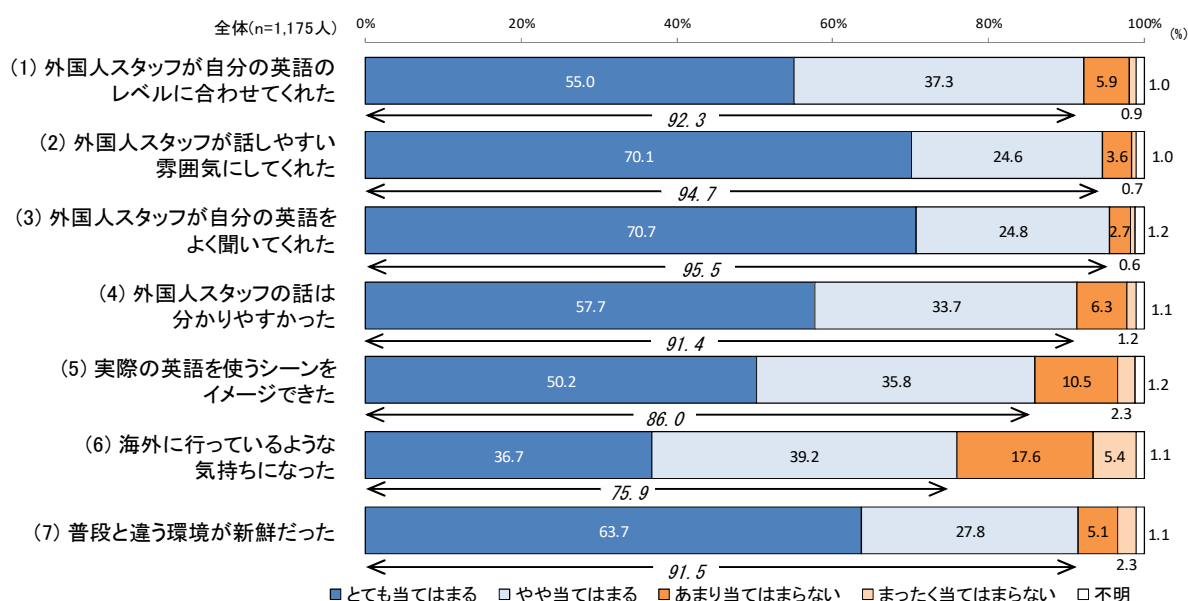


TGG での英語体験に関して、「とても当てはまる」と「やや当てはまる」を合わせた<<当てはまる>>の割合について、項目別に見ると、「TGG の中では英語を使おうという気持ちになった」が 95.7%と最も高く、次いで、「普段の授業よりもたくさん英語を話すことができた」(94.6%)、「指示された内容を英語で表現するように努力できた」(93.5%)、「周りの人たちの助けを借りながら話したい内容を英語で表現できた」(93.5%)となっている。大部分の児童・生徒が英語を発話しようという気持ちが高まり、実際に英語が通じた体験を通して自信をもつことができたことがうかがえる。

肯定的な回答の割合が 13 項目のうち 8 項目で 9 割を超えており、その他の項目も肯定的な回答が大部分を占めている。これは、TGG での英語体験において、TGG の目的や特長が生かされ、それらを児童・生徒が実感できていることを示していると考えられる。

エ TGG における外国人スタッフの対応、TGG 利用の感想等

図 16 TGG での英語学習に関して、もっとも当てはまるものを1つ選んでください。【調査① (TGG 利用後) 問3 児童・生徒】

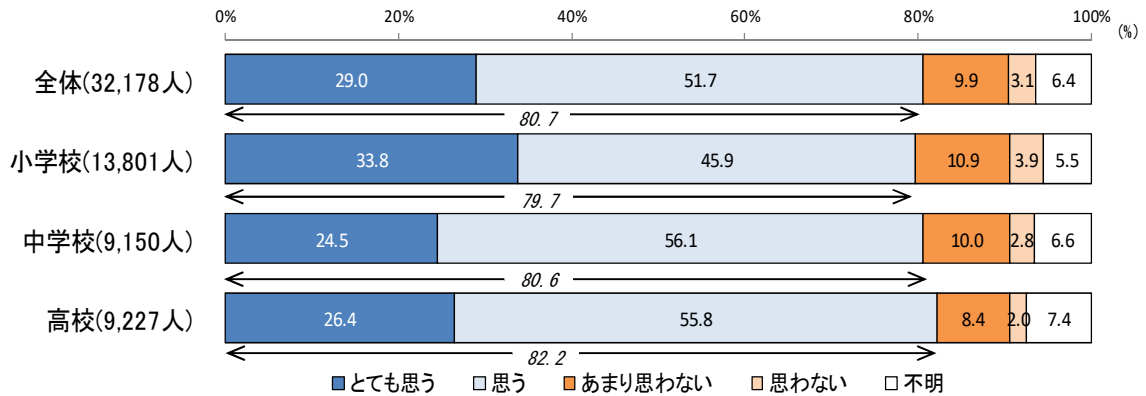


TGG での英語学習の特長や感想に関して、「とても当てはまる」と「やや当てはまる」を合わせた<<当てはまる>>の割合について、項目別に見ると、「外国人スタッフが自分の英語をよく聞いてくれた」が 95.5%で最も高く、次いで、「外国人スタッフが話しやすい雰囲気にしてくれた」(94.7%)、「外国人スタッフが自分の英語のレベルに合わせてくれた」(92.3%)となっており、特に外国人スタッフの対応についての満足度が高いことが分かる。

TGG での体験についての肯定的な回答の割合が 7 項目のうち 5 項目で 9 割を超え、そのほかの 2 項目についても 7 割超と全体的に肯定的な回答が大部分を占め、TGG における英語体験の特長が多くの子供・生徒に評価されていると考えられる。

オ TGG の再利用の意向

図 17 また TGG を利用したいと思いますか。【調査③（TGG 利用後）問5 児童・生徒】

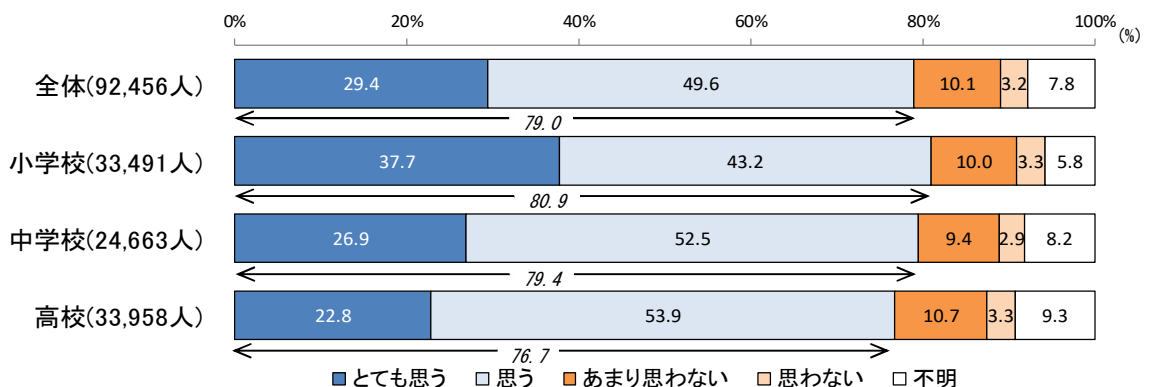


TGG の利用後に、TGG をまた利用したいと思うかについて、「とても思う」と「思う」を合わせた<<思う>>は全体で 80.7%となっている。校種別に見ると、高校(82.2%)、中学校(80.6%)、小学校(79.7%)の順で高く、いずれも 8 割前後となっている。小学校においては、「とても思う」の割合が 33.8%と他の校種よりも高かった。

過去調査結果と比較すると、全体の傾向に大きな違いは見られないが、全体の<<思う>>の割合は、今回の調査の方がわずかに高くなっている。

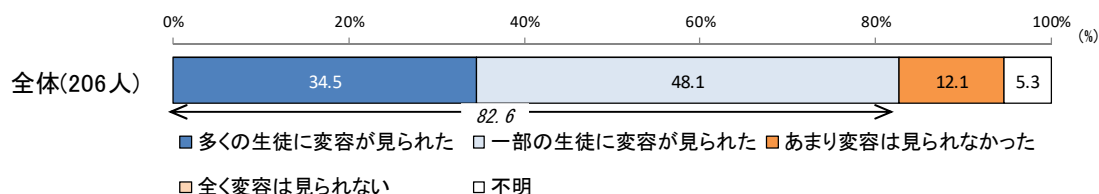
(参考) 過去調査結果

図 18 また TGG を利用したいと思いますか。【過去調査結果（TGG 利用後）問5 児童・生徒】



カ TGG 利用後の生徒の変容

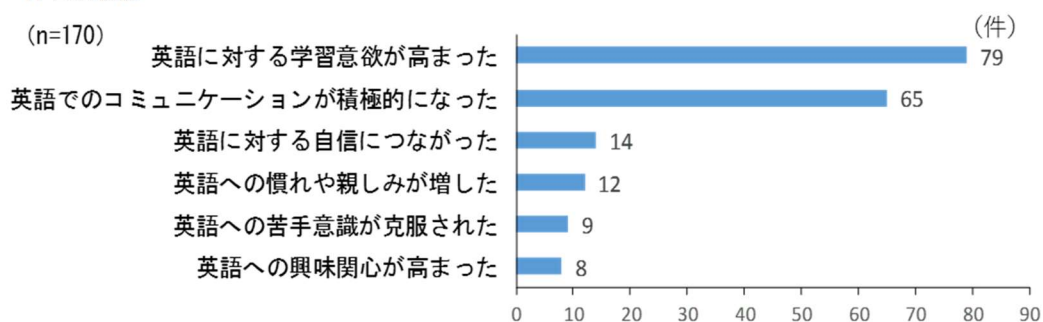
図 19 TGG の利用後、生徒に何らかの変容は見られましたか。【調査③ (TGG 利用後) 問3 教員】



TGG の利用後に生徒に何らかの変容が見られたかについて、教員に聞いたところ、「多くの生徒に変容が見られた」が 34.5%、「一部の生徒に何らかの変容が見られた」が 48.1%で、何らかの変容が見られた割合の合計は 82.6%であった。変容が見られた生徒が大部分であり、中でも「多くの生徒に変容が見られた」が 3 割を超えていることは評価できる。

過去調査結果と比較すると、前回調査よりも 5.2 ポイント低下しているが、変容が見られたと回答した割合が大部分を占めている傾向には変わらない。

図 20 どのような変容が見られましたか。【調査③ (TGG 利用後) 問3 教員 自由記述の内容を分類】

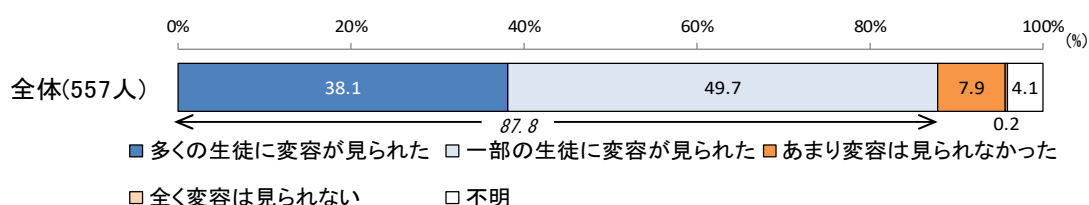


※ 1 つの回答に複数の内容を含むものは複数の項目にそれぞれカウントしている。

生徒に見られた変容の内容について見ると、<<英語に対する学習意欲が高まった>>が 79 件、<<英語でのコミュニケーションが積極的になった>>が 65 件と、意欲や積極性に関することが多く、教員が授業の様子などから児童・生徒の変化や成長を実感できている様子が見える。

(参考) 過去調査結果

図 21 TGG の利用後、生徒に何らかの変容は見られましたか。【過去調査結果 (TGG 利用後) 問3 教員】



(3) まとめ

英語や英語学習について、児童・生徒は英語を話す際に恥じらいや緊張感を感じている様子が見え、一方、英語が通じた喜びを感じたり、英語学習における目標をもっていたり、人生の中で英語を使ってみたいという意欲をもっていたりすることが見える。TGG の利用前後の結果等を見ると、教室とは異なる空間での体験を通じたコミュニケーション意欲向上など、心理的抵抗感や苦手意識の克服につながる効果が見られた。また、TGG における日常とは異なった臨場感のある空間で英語を使う体験について、英語に心理的抵抗感や苦手意識をもっている生徒にとっても、英語を使う楽しみや喜びを実感できる機会を提供することができ、TGG の効果として評価できる。TGG での1回数時間の体験により、児童・生徒の英語力に大きな変容をもたらすことはもとより期待できるものではないが、教員も TGG 利用後の生徒の変容を認識していることから、TGG での体験が児童・生徒の意識にインパクトを与えたことを見て取ることができる。

児童・生徒の英語学習の目標や願望をかなえるに当たり、TGG での体験がその助けの一端となると考えられ、TGG での体験をその場のみのものとせず、各学校における学習活動に有機的に結び付けることにより、更なる意欲の向上へとつながることが期待できる。

2 TGG 利用に関するその後の影響・効果（調査②）

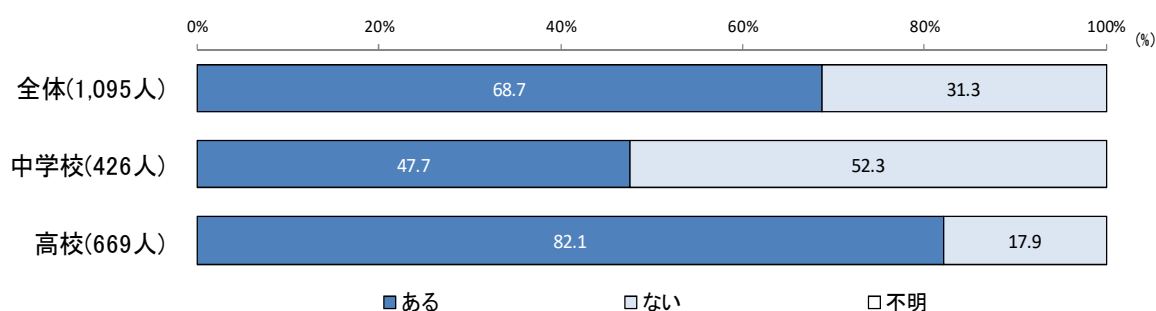
この章では、長期的な影響・効果の観点から検証を行うため、調査②の結果を見ていく。本調査は TGG 利用後に実施したものではなく、TGG を利用したことがある生徒を、TGG 利用から一定期間が経過していることを踏まえ調査対象としている。このことを踏まえ、TGG の利用の感想やその後の英語や英語学習の取組への影響など、TGG での英語体験がどのような影響をもたらしているかを見ていく。

なお、本調査の対象となっている都内公立中高一貫教育校は比較的積極的に英語学習に取り組んでおり、TGG の利用も比較的多い学校であることには留意が必要である。

（１）TGG での英語学習に関すること

ア TGG の利用経験の有無

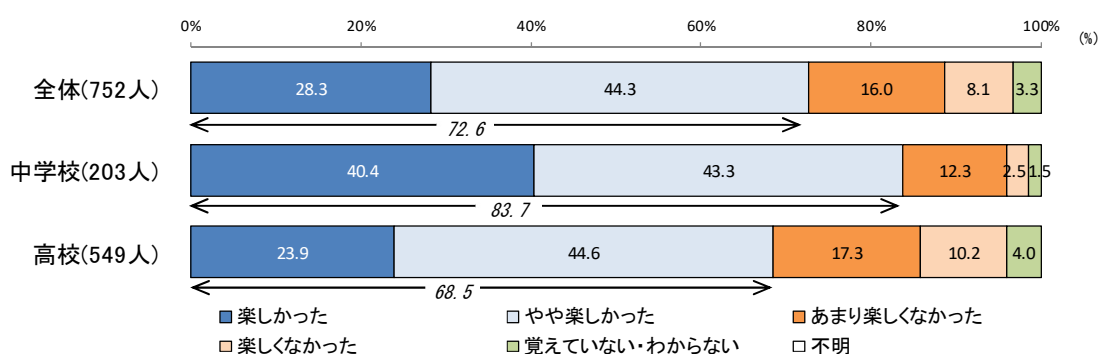
図 22 TGG を利用したことがありますか。【調査②問3 生徒】



本調査における TGG の利用の有無の全体の割合について、「ある」が 68.7%であった。校種別に見ると、高校が 82.1%、中学校が 47.7%となっている。

イ TGG での体験の感想（楽しかったか）

図 23 TGG は楽しかったですか。【調査②問4 生徒】



TGG の日常とは異なった臨場感のある空間で英語を使う体験について、「楽しかった」と「やや楽しかった」を合わせた<<楽しかった>>の全体の割合は72.6%であった。

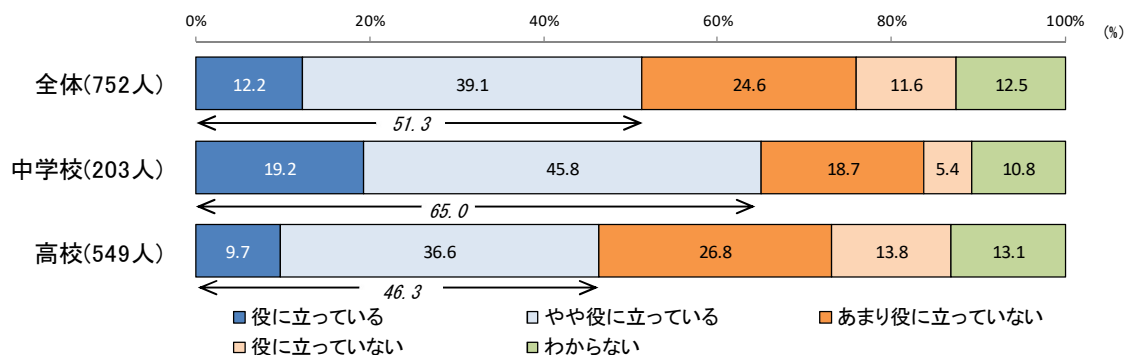
校種別の割合の差に関して、高校生については、中学生よりも英語の学習期間が長く、また、学習の機会あるいはその他の機会を通じて短期間であっても海外での滞在を経験している可能性があり、そのような経験の違いが影響していることも考えられる。TGG における海外の疑似体験は、英語でのコミュニケーションへの心理的な抵抗感を取り払うには大きな役割を果たすと思われるが、本物の海外体験をすると、疑似体験が物足りないものと捉えられてしまう可能性もある。

また、7割を超える生徒が、体験から時間が経過しても<<楽しかった>>と捉えており割合としては大半を占めるものの、TGG において体験直後に実施したアンケート結果（調査③TGG において過去に実施したアンケート調査 図7）と比較するとより割合が低くなっている。これは、アンケートの実施時期等により違いが出たことが考えられる。

体験から時間が経過することで印象が薄れることは自然なことと言えるが、繰り返しの利用があればコミュニケーション意欲の向上に違いが見られる可能性もあり、TGG において、体験後も再度の利用を促す取組や長期間刺激になり続け、意欲を持続できるようなプログラムの多様化などの工夫が行われることが望ましい。

ウ TGG の体験が英語学習に役立っているか

図 24 TGG での体験が、英語学習に役立っていると思いますか。【調査②問5 生徒】



TGG での体験が、英語学習に役立っているかについて、「役に立っている」と「やや役に立っている」を合わせた<<役に立っている>>の割合は51.3%であった。校種別に見ると、中学校が65.0%、高校が46.3%と差が見られた。

高校生に対しては、より能動的なコミュニケーション能力・意欲の向上が図られるよう、例えば自身が興味あるテーマについての英語での表現や情報発信・交流を学ぶ部分を充実させるなど、きめ細かく英語の学習レベルなどに対応することにより、英語教育の中に必要なものとして定着していける可能性がある。

図 25 「英語が好きですか」×「TGG での体験が、英語学習に役立っていると思いますか」【調査②問2(1)×調査②問5 生徒】

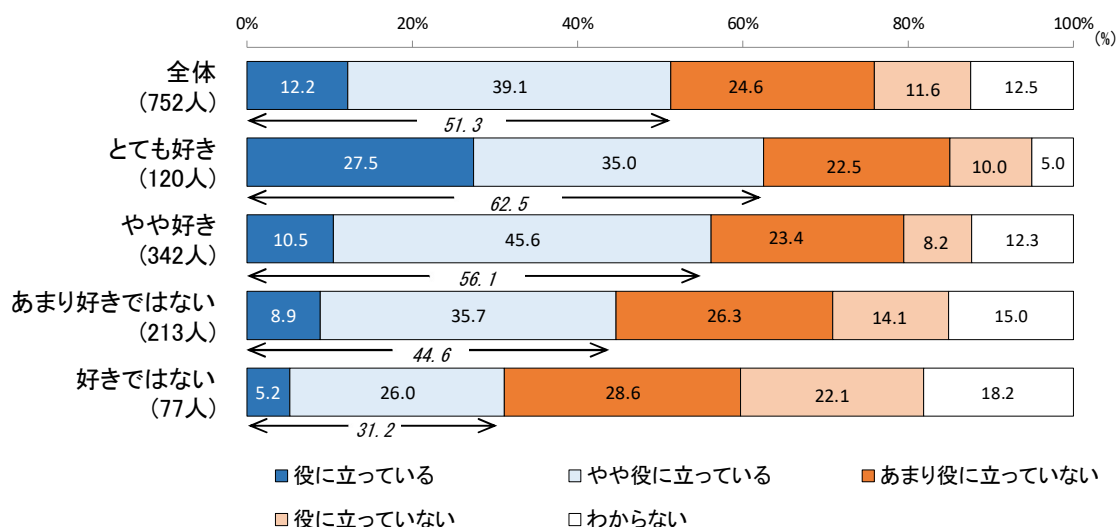
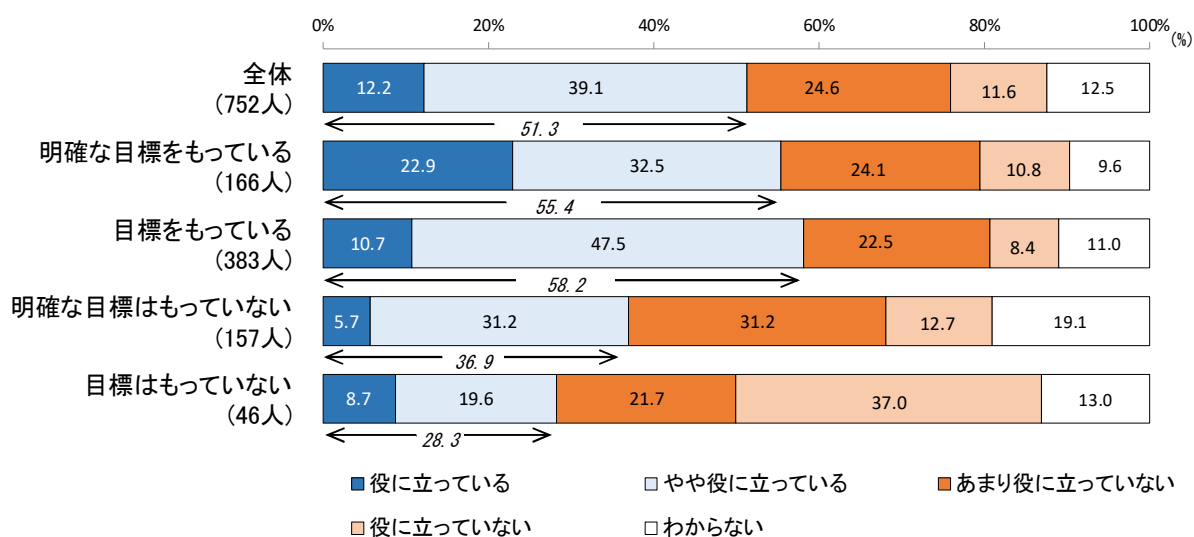


図 26 「英語を学習する上で目標をもっているか」×「TGG での体験が、英語学習に役立っていると思いますか」【調査②問2(4)×調査②問5 生徒】

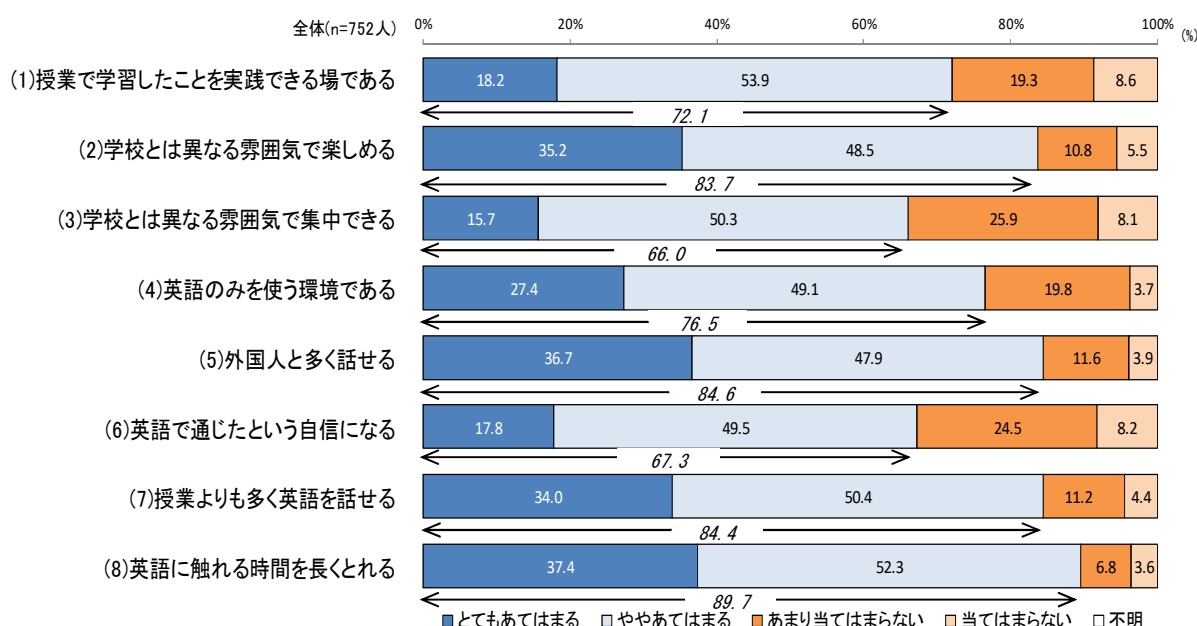


※本調査②では問2(1)として「英語が好きである」か、問2(4)として「英語を学習する上で目標をもっている」かについて聞いている。

TGG での英語の体験が、英語学習に役立っているかについて、英語や英語学習への意識に関する質問の回答別に見ると、英語が好きである生徒、英語を学習する上で目標をもっている生徒の方が、TGG での体験が英語学習に役立っていると答えた割合が高くなっている傾向が見られた。意欲的に英語学習に取り組む生徒にとって、TGG での体験がより有意義なものとなることがうかがえる。意欲が高い生徒にとって魅力的なプログラムを提供していくことはもとより、英語学習への意欲がそれほど高くない生徒の意欲を引き出していくことができれば、TGG の体験がより効果的なものになる可能性がある。

エ TGG での体験の感想（TGG の特長についてどう感じたか）

図 27 TGG での体験に関して、以下の点についてどう感じましたか。【調査②問6 生徒】



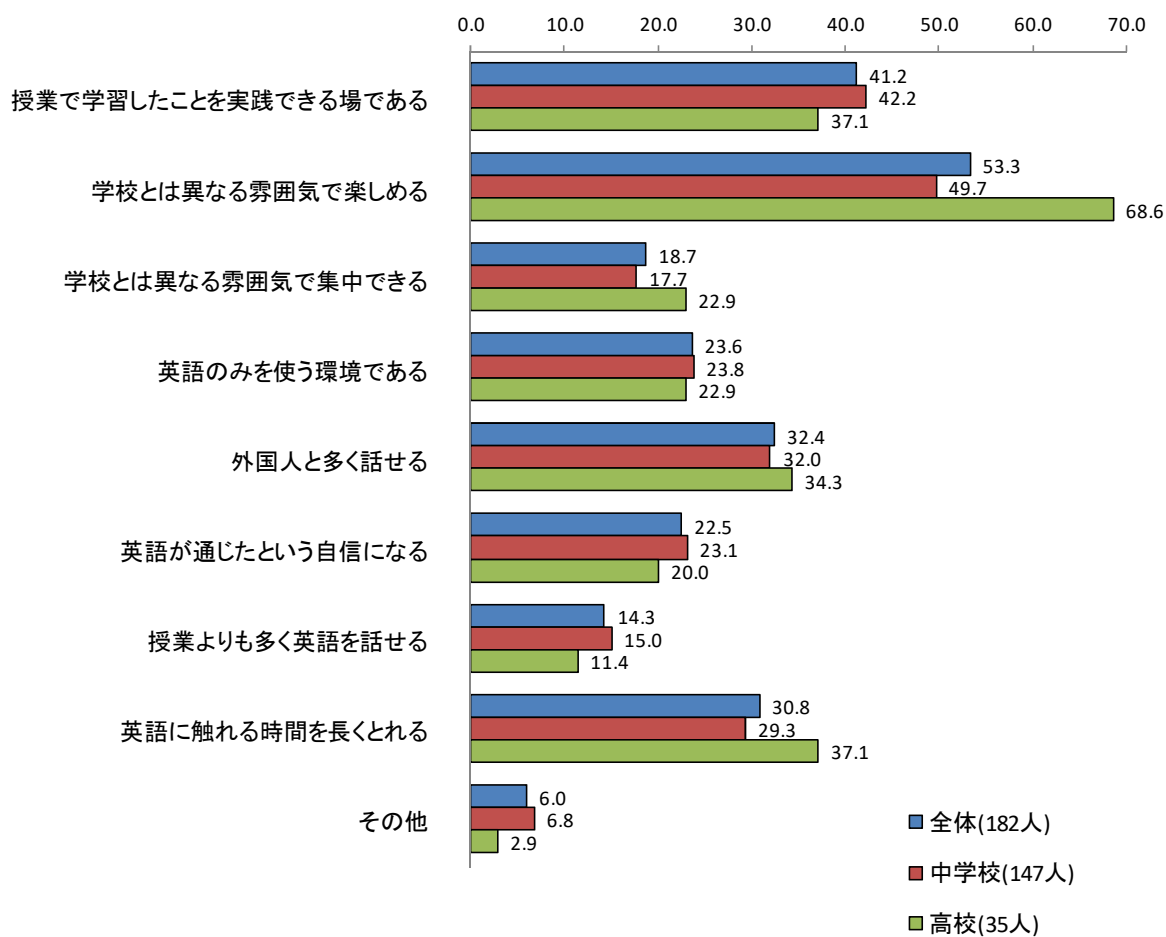
TGG の特長について、実際に体験してどのように感じたかを項目別に見ると、「とても当てはまる」と「やや当てはまる」を合わせた<<当てはまる>>の割合は、「英語に触れる時間を長くとれる」が 89.7%で最も高く、次いで、「外国人と多く話せる」(84.6%)、「授業よりも多く英語を話せる」(84.4%)が高く、それぞれ 8 割を超えた。その他の特長についても、<<当てはまる>>の割合が大部分を占めた。

多くの生徒が普段よりも多く英語を話すことができたと感じ、学校とは異なる雰囲気の中でより実践の場となった様子がうかがえる。

英語の授業との関わりについて、TGG の活用方法は様々な効果や方法があると思われ、各校の実態に合わせて活用することが望ましい。その上で、TGG を「英語の授業では足りない経験を供給する場」、「英語の授業で身に付けた力を実際に試してみる場」と位置付けることで、TGG の活用の意義がより明確になる可能性がある。

オ TGG の特長について（TGG 未利用者への質問）

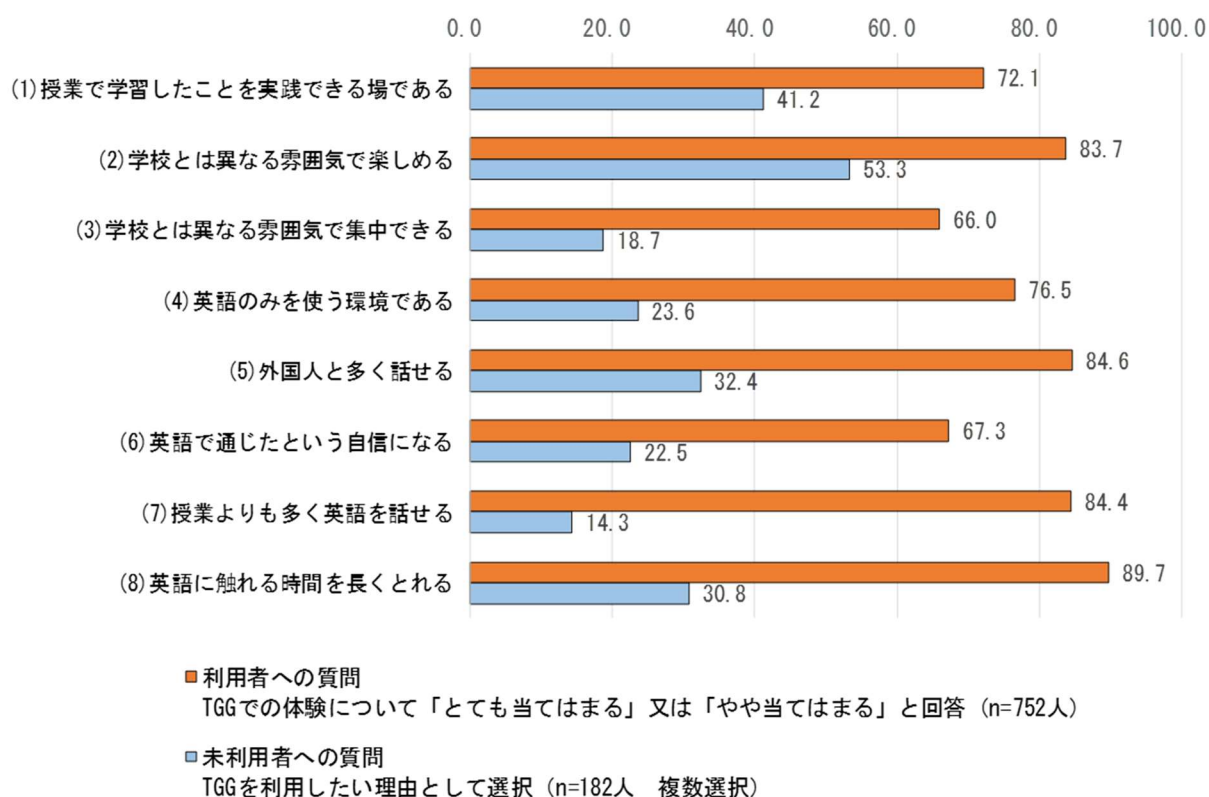
図 28 TGG を「利用したい」「やや利用したい」と答えた理由について、当てはまるものを全て選んでください。【調査②問 11 生徒】



TGG の未利用者に TGG を利用したい理由について聞いたところ、「学校とは異なる雰囲気を楽しめる」が 53.3%で最も高く、次いで、「授業で学習したことを実践できる場である」（41.2%）、「外国人と多く話せる」（32.4%）となっている。

○TGG の特長についての比較

図 29 TGG での体験の感想（TGG 利用者への質問 TGG の特長についてどう感じたか）と TGG の特長について（TGG 未利用者への質問）の比較【調査②問 6 及び問 11 生徒】

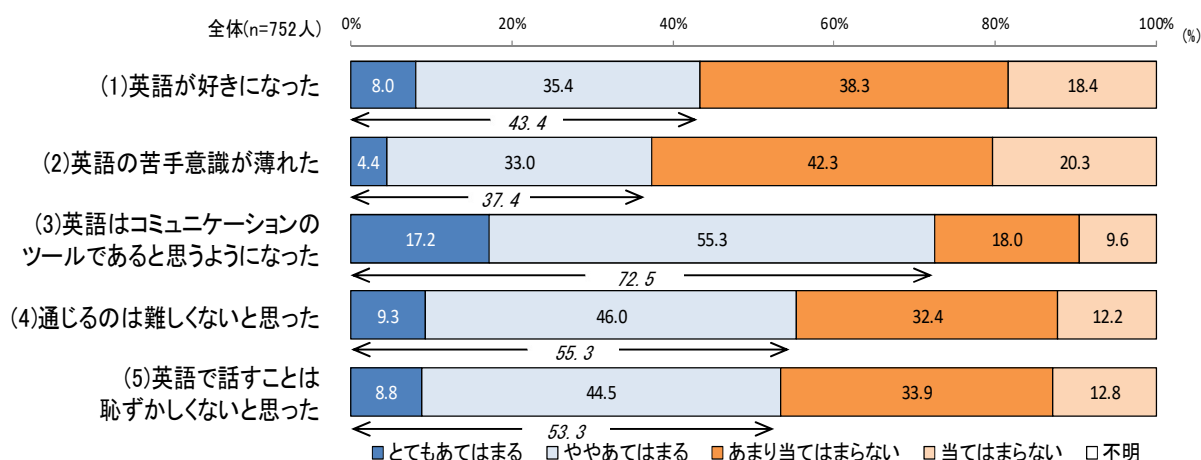


TGG の利用者が TGG の特長として<<当てはまる>>と回答した割合（図 27）と、TGG 未利用の生徒に、TGG を利用したい理由として同じ項目について質問した結果（図 28）とを比較すると、実際に TGG を体験した生徒の<<当てはまる>>の割合の方が高い傾向が見られた。

利用者と未利用者での比較であること、アンケートの実施方法、設問が異なり、単純な比較はできないものの、TGG の特長や効果を、TGG を実際に利用した生徒が体験を通じて実感できていることがうかがえる。

カ TGG 利用後の英語で話すことについての意識の変容

図 30 TGG の利用後に英語で話すことについての意識は変わりましたか。【調査②問 7 生徒】

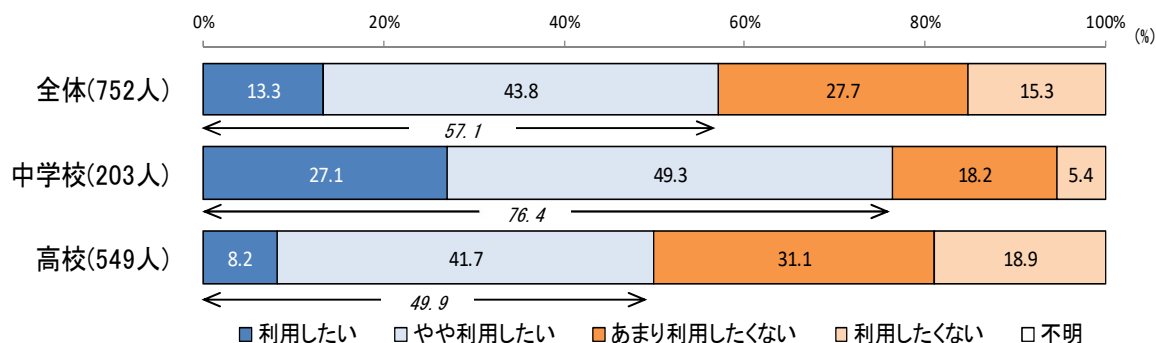


TGG での体験後に英語で話すことについての意識の変容があったかについて、「とても当てはまる」と「やや当てはまる」を合わせた<<当てはまる>>の割合は、「英語はコミュニケーションのツールであると思うようになった」が 72.5%と最も高く、次いで、「通じるのは難しくないと思った」(55.3%)、「英語で話すことは恥ずかしくないと思った」(53.3%) となっている。

これらは TGG の特長の中にもあり、TGG の体験が生徒の英語に対する意識に好影響を与える効果があったためであると考えられる。

キ TGG の再利用の意向

図 31 TGG をまた利用したいですか。【調査②問 8 生徒】

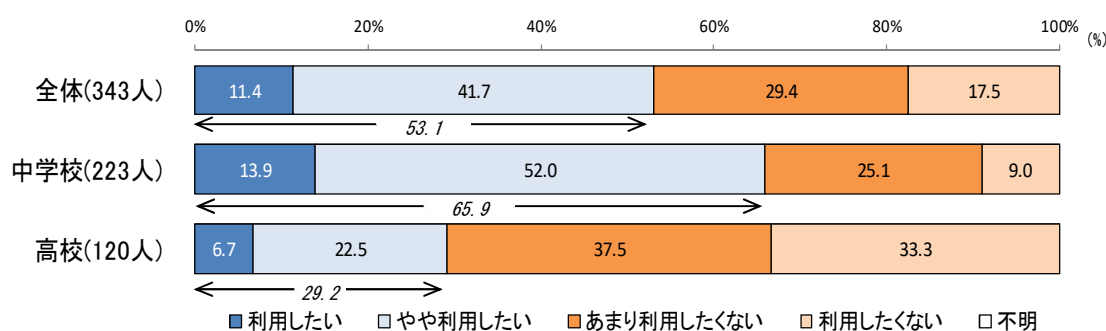


TGG をまた利用したいかについて、「利用したい」と「やや利用したい」を合わせた<<利用したい>>の割合は、全体では 57.1%であった。校種別に見ると、中学校が 76.4%、高校が 49.9%となっている。

約 6 割の生徒が、体験から時間が経過しても<<利用したい>>と回答しているが、TGG において体験直後に実施したアンケート結果（図 17）よりも、また利用したいと<<思う>>割合が低くなっている。アンケートの実施時期等により違いが出たことが考えられ、体験から時間が経過することで印象が薄れることは自然なことと言えるが、TGG において、体験後も再度の利用を促す取組や長期間刺激になり続け、意欲を持続できるような工夫が行われることが望ましい。

ク TGG 利用の意向（TGG 未利用者への質問）

図 32 TGG を利用したことが「ない」と答えた方にうかがいます。TGG を利用してみたいと思いますか。【調査②問 10 生徒】



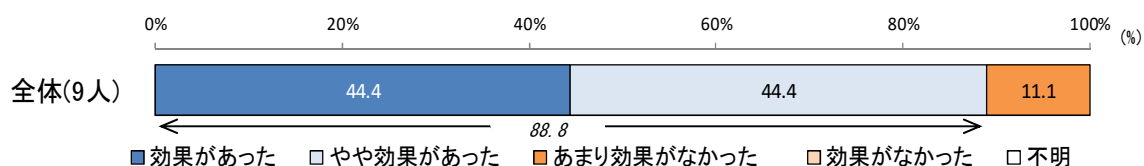
未利用者に聞いた TGG の利用意向について、「利用したい」と「やや利用したい」を合わせた<<利用したい>>の割合は全体で 53.1%となっている。また、校種別に見ると、中学校が 65.9%と高校の 29.2%より<<利用したい>>が高く、2 倍以上の割合となっている。

高校で割合が比較的低いことに関して、高校生に対して施設の魅力が十分に伝わっていないことや、伝わっていても魅力的に捉えられていない可能性があり、提供するプログラムの内容やレベル等の質の維持・向上を図るとともに、学校での活用事例等の周知により、施設の魅力が一層伝わるように工夫していく必要がある。

また、単に楽しいだけではなく、より有益であると思わせる工夫が必要となることも考えられ、高校の探究的な授業内容とリンクするようなプログラムを TGG が提供、周知することで意識が変わってくる可能性がある。その一方で、TGG のことをよく知らないまま関心がないという可能性も高く、実際に体験してみると施設の魅力を感じてもらえることもあると考えられる。

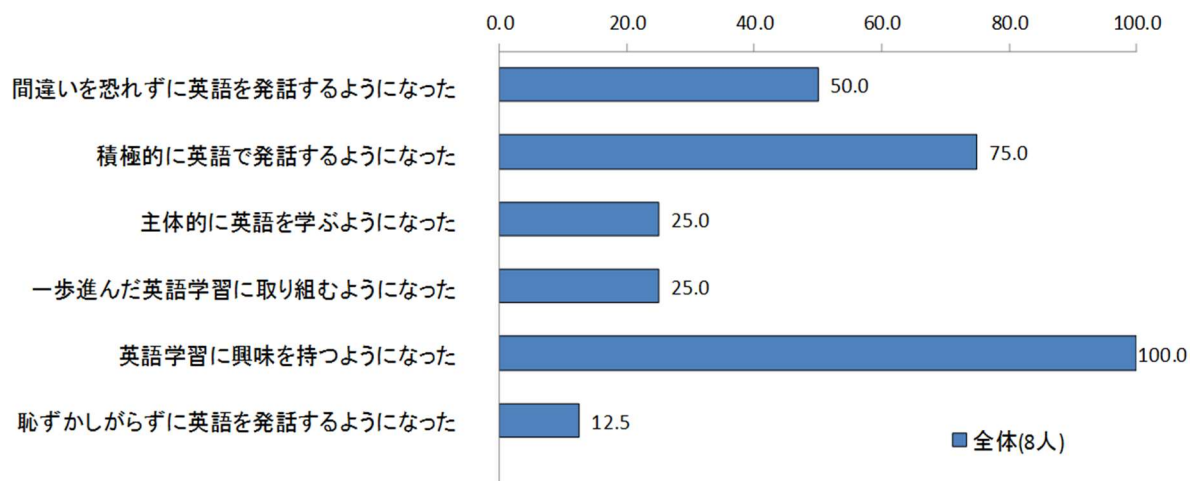
ケ TGG 利用後の生徒の変容

図 33 TGG を利用して教育上の効果がありましたか。【調査②問 2 教員】



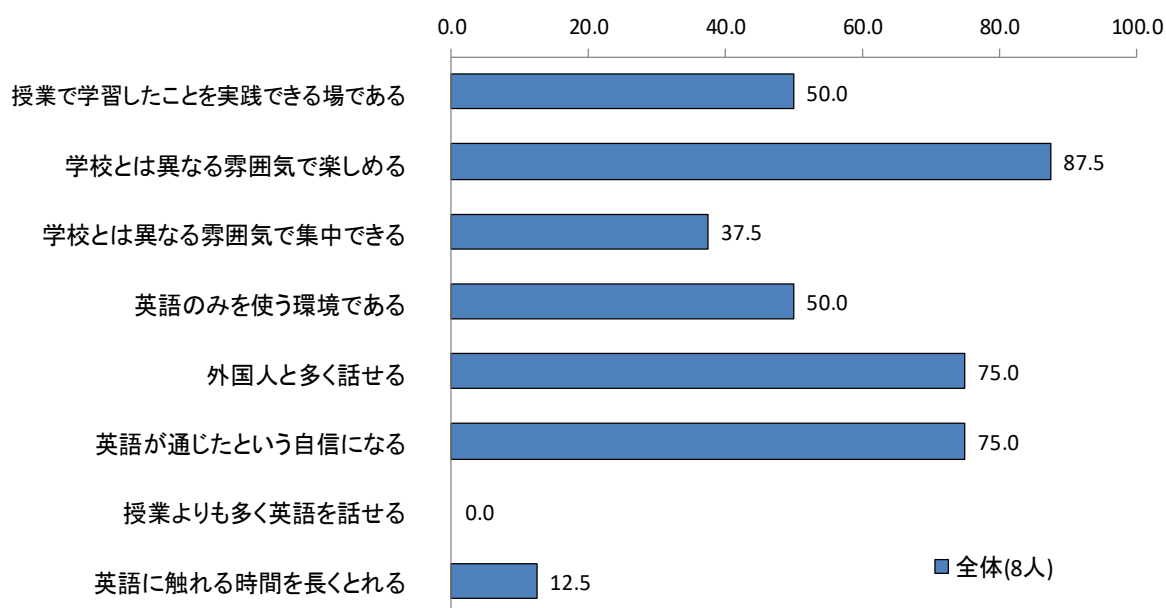
TGG 利用時の教育上の効果について、「効果があった」と「やや効果があった」を合わせた<<効果があった>>の割合が 88.8%と大部分を占める。

図 34 TGG を利用して「効果があった」「やや効果があった」と答えた方におうかがいします。生徒にどのような変容が見られましたか。【調査②問 3 教員】



生徒の変容について、教員に聞いたところ、「英語学習に興味を持つようになった」(100%)が割合として最も高く、次いで、「積極的に英語で発話するようになった」(75.0%)、「間違いを恐れずに英語で発話するようになった」(50.0%)となっている。普段の授業内においてより一層英語を使う機会を生徒に提供することにより、TGG 利用時の効果をより授業に生かすことができると思われる。

図 35 TGG を利用して「効果があった」「やや効果があった」と答えた方におうかがいします。TGG のどのような点が効果につながったと思いますか。【調査②問 4 教員】



TGG の利用が英語学習の効果につながった点について、「学校とは異なる雰囲気を楽しめる」(87.5%)の割合が最も高く、次いで、「外国人と多く話せる」(75.0%)と「英語が通じたという自信になる」(75.0%)となっている。

(2) まとめ

この章は、TGG 利用後に、一定期間経過した後の影響・効果の調査を試みたものであり、結果からは、評価できる点が見られる一方、TGG のプログラムについて、一定期間経過後も意欲を持続させたり向上させたりするために、改善の余地があることも見て取れた。

評価できる点としては、TGG での体験について、同様の設問における利用直後の結果よりは下がるものの全体的に肯定的な結果が見られ、様々な英語学習の機会や手段がある中、一定期間経過後も、多くの生徒が TGG での体験を楽しかったとし、学習にも役に立ったと回答していることは評価できる。

また、TGG の特長を、生徒が TGG での体験を通じて実感することができており、TGG の目的である英語が通じたという成功体験や、英語使用への恥ずかしさの低減、心理的抵抗感や苦手意識の払拭など、意識の変容の一助となっていることがうかがえ、その点も評価できる。

一方、課題として考えられる点も見られた。まず、全体的に高校生の方が中学生よりも肯定的な回答の割合が小さい傾向が見られた。高校生については、大学受験が意識されている可能性はあるが、中学生に比べて海外渡航の経験の有る割合が増える傾向があり、また、学習が進んでいることから、高校生のレベルに合った、自己表現したいという意識や潜在的な欲求に効果的に応えるようなプログラムの充実が必要となる可能性がある。海外での経験がある生徒に対して TGG での体験を有意義であると感じさせるよう、単に楽しいだけでなくより有益であると思わせる工夫が必要と思われる。

また、時間が経過しても、「TGG の体験が良かった」、「また行きたい」と思ってもらえるようにするための工夫が必要である。今後、高校の探究型の学習と内容がリンクするようなプログラムの提供や、高校生が興味のある内容を踏まえたテーマ設定等、プログラムの充実を図ることができれば、英語教育の中に継続的に TGG が必要なものとして位置付けられる可能性がある。さらに、TGG の未利用者に対しては、施設やプログラムの魅力が一層伝わるよう工夫していくことが必要となる。

TGG は各校がそれぞれの実態に応じて利用することが望ましいが、「英語の授業では足りない経験を提供する場」「英語の授業で身に付けた力を実施に試してみる場」などと位置付けるとともに、普段の授業内においても、より一層英語を使う機会を生徒に提供することにより、TGG での体験がより有意義なものになると考えられる。

第4 まとめ

1 今回の調査結果について

第3において見てきたとおり、TGGにおける日常とは異なった臨場感ある空間で英語を使うという体験は、児童・生徒にとって有意義な経験であり、TGGの特長に合致するものとして評価に値する。これらは、学校現場からの声とも一致する。校種を問わず、普段の授業では英語が決して得意ではない児童・生徒もTGGでは英語体験を楽しみ、英語を発話することができており、TGGの特長である、外国人スタッフの対応や英語漬けの環境等が肯定的に捉えられ実感されていることは評価できる。また、現在、予約・利用者数が回復してきており、このことも、学校現場からTGGが一定程度評価されていることを示していると考えられる。

一方、課題として、TGGにおける体験をより有意義なものとするために、児童・生徒のレベルに合ったプログラムを提供することができるよう、内容を充実させる必要があることや、TGGで英語が通じたという成功体験から生じた英語学習への意欲を、その後の英語学習においても持続させていく必要があることがうかがえる。

様々な英語学習の取組がある中、TGGの1回の利用が児童・生徒の英語力にすぐに変容をもたらすものではないが、これらの課題に応えられるよう、更なる内容の改善に取り組むことが望ましい。また、今後、多摩地域における同様の施設の開設により、児童・生徒がTGGを体験する機会が拡大することが考えられる。TGGとして、これらの児童・生徒や教員の声も生かし、更に魅力的なプログラムや取組を展開することが期待される。

2 今後の検証について

今回の調査は、新型コロナウイルス感染症の影響により、調査対象や期間、内容等に制約を受け、可能な範囲で実施したものであるため、今後も更なる検証を行い、データを蓄積していくことが望ましい。また、今後の検証に当たっては、令和2年度の検討経緯や今回の調査結果を踏まえ、以下のような観点が考えられる。

○今後の検証における観点の例

- ・継続利用による変化や意欲の持続などの測定（最初の動機付けだけか、複数回の利用により効果が上がるか等）
- ・TGGを利用した学校と利用していない学校の比較
- ・TGG利用後の教員の授業スタイルの変化
- ・長期的な調査の継続、追跡調査
- ・TGG利用中の児童・生徒の学習活動調査

TGG は、学校が授業や行事がある中で頻繁に利用できるものではなく、単発のイベントとして活用されているといったことを前提としつつも、グローバル人材を育成するという目的に照らし、児童・生徒の英語コミュニケーション能力の向上にどのくらい効果を上げているか、プログラムをどのように改善、充実を図っていくとより効果を発揮するかという問題意識をもつことが重要である。

なお、検証の実施に当たっては、新型コロナウイルス感染症の状況に留意するとともに、多摩地域における体験型英語学習施設の運用状況を見ながら実施していく必要がある。